

(別添7)

事業所名 グループホーム新別府一燈園

## 2 目標達成計画

作成日: 令和6年3月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ過によって大きく影響を受けた社会との関わりの減少、活動量の低下が、まだまだ以前の状態にまでは回復できていない。	地域社会や家族との関わりの機会を多く持ち、利用者お一人お一人が楽しみを持ち生き生きとした生活が送れるよう支援する。	地域活動への参加、地域交流行事の実施や、家族との関係強化によってお一人お一人の好み・楽しみ事を聴取し、生活の中に取り入れていくように努める。	12ヶ月
2		能登半島地震を目の当たりにして自然災害対策がまだまだ十分ではないことの実感と、コロナ過では実際に集団感染を経験したこともあり、非常災害・感染症の対策をより強化する必要がある。	非常災害時や感染症蔓延時に高いレベルでの対応ができるよう組織力強化を図る。	令和6年度から義務化となるBCPの取組を通して、策定している計画を基に立地地域および事業所の特性、所属する職員個々の状況を踏まえた実効性の高い研修や訓練を確実に行う。	12ヶ月
3		グループホーム創設当初の利用者像とは大きく様変わりし、要介護4、5の特養レベルの利用者も多くおられ、介護量の増加とともに医療の必要度も高まっている。携わるすべての職員の介護と医療の両面での技術・知識の更なる向上が必要。	利用者が安全で安心して生活を送れるよう、職員の総合的なスキルアップを図る。	事業所、法人内外で行われる関係研修に全ての職員が受講できる機会を確保することで、全員が新たな知識や技術の習得を図る。	12ヶ月
4		職員の安定的な確保が年々難しくなっている状況にある中、利用者の重度化に加え、コロナ感染時に実際に経験した非常時の少数職員での対応が今後も必要となることも想定され、更なる業務の効率化や省力化、簡素化を進める必要がある。	・業務効率化、省力化、簡素化の推進によって、職員がストレスなく働きやすい職場環境の構築を図る。	・業務効率化、生産性向上を目的とした業務改善委員会を定期的開催し、その中で全ての関係職員から随時提出された意見、アイデアを基に、目標と達成計画、取組内容を定め、年間を通してこのPDCAサイクルを継続実施する。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。